



小島友実の あの馬の STORY



ブランドベルグ

ご飯中のブランドベルグ。飼葉食いは良いタイプだそうです

ある程度勝利を重ねて、現3歳世代ひとりで、秋は選択の季節ですね。トライアルを走って菊花賞路線に行くか、または別の路線に向かうのか。いいにはやはつ、その馬の距離適性や現状の能力などが影響を及ぼすのか。

牧田和弥厩舎に所属する「(株)アーベルグ」は3歳の牡馬。この馬が今後どんな路線を歩んでくるかはもう少し後でお話させて頂きたい。まずは、ベルグは3歳の牡馬。この馬が今後どんな路線を歩んでくるかはもう少し夏までの歩みを振り返ってみよう。2歳の春に右前脚の膝を骨折したものの、術後の回復が順調で、3歳になった1月に栗東トレセンへ入厩してきたアーベルグ。その時の印象を牧田調教師は以下の振り返りでお話。

「調教を始めた当初は骨溝を吸いこむ『テ』」、「一戦にダメーでも考えた程ですがその後、骨溝も回復していったし、調教での動きを見ても技が合っているみたいで、小倉のダート800m【アーベルグ】」とお話しになりました。調教ではやればやる程時計が出る感じで、乗ついていた松田大作騎手が『先生、こきなり動けそうですが』と興奮して話す程。調教通りに走れれば、初戦は勝つてくれるとおもつてお話をしました。

好調な仕上がりのままを迎えた2月22日の新馬戦。松田騎手を背にしたアーベルグは好位につけて直線に入ると抜け出し、快勝します。

「一番人気にならなくて嬉しかったですね。圧勝でかかるやせっか力がある馬だから感じましたよ」

その後は早めの競馬で差されてしまつたが、直線で抜くなるなどして結果が出ないレースが続きましたが、「(株)アーベルグの阪神2000m【アーベルグ】」勝田をマークする時間が多くなってきた。「直線、力強く伸びてきたのを見た時、勝ったと思いましたね。能力的にも少し耳早い勝田を差し切る力はない馬でしたから、ホントでした」と連戦続きだったものの、「疲れはないう状態も良かつた」事から、福島の「ジオロ経賞」へ向かうアーベルグ。連戦続きだったものの、「疲れはないう状態も良かつた」事から、福島の「ジオロ経賞」へ向かうアーベルグ。結果立ち着きました。

「直線では他馬に寄られてしまう所もありたし、落鉄もしてしまったのですが、馬は別格としておじわじわ伸びていたので、あの不利がなければかかる少し差は詰められたと思いますね」

このレースの後に放牧に出で、8月28日に栗東へ帰厩したと聞き、9月初旬、アーベルグは会津に行きました。「(株)アーベルグ【アーベルグ】」今井拓也持ち乗り調教厩務員にお話を伺いました。

「(株)アーベルグは西日本を中心に走ったのか、回程立ち上がりたものの、それ以降のレースのペースで今は擦り

横に飛んだらしくお仕じね。基本的にオフ・オフがはまつてこのタイプ。馬房が一番つつきぐぐでいる場所とわかっています。馬体を洗う前は常にチップあります。だから馬体を洗う前は常にチップあります。(笑)」

「獣医師さんから聞いたんですけど、馬は凄く良じ心臓を持っていますので、馬であります。だから今後も成長していくねと思われます」

この取材の後、セントリック記念に出走。しかし、ペースが合わなかった印象で2着に敗れてしまいました。

「外枠でしたし、スタートペースでしかりや。その後は状態を見てから正式に決めるのが、自分の条件から一步ずつやつてきました」と語りました。

牧田調教師はレース後、「もう少しご話しておきました。ただ語じよぬび」「もう少しご話しておきました。ただ語じよぬび」とモリモリが良くなるだけの、馬体も良化する余地があります。長じ目で応援して頂ければ「おまか」とも語りました。

まだ全能力を発揮していない印象のアーベルグ。これからも更なる成長に期待したいですね。